亘理（宮城）のイチゴが一段と活性化

効きめ鮮やか速効性ミネラル「鮮緑」

宮城県亘理郡亘理町は東北きってのイチゴ産地。地域全体で約60㌶くらい作付けしており、そのうち50㌶を吉田いちご部会で占める。品種はさちのかがいまのところ断然主力で約90%を占め、残り10%がとちおとめなど。この産地でミネヒロン㈱（茨城県東茨城郡内原町内原1400―6、☎029―259―5515）の水溶性微量要素肥料「鮮緑」をはじめエキヒロン、元肥追肥用の有機化成オルガマグ、G―セブンなどが評価されて強い支持を受けており、聞きしに勝る効果ぶりにおどろかされた。その実態を現地に探った。

「鮮緑」3㌔グラム流し込みで

根張り抜群葉色・光沢良い

宮城県亘理町松元
江川秀男氏

江川秀男氏は夫婦二人で「さちのか」を22㌃作っている。全部地床育苗をしていて、コンテナへ植え付けし夜冷育苗をする。定植は九月4～5日から。なるべく窒素肥料を効かせないように育苗管理し、花芽を12～13個着ける。

本圃は砂壌土で、通称〝大根ベッド〟といっているが、高さ35～40㌢ぐらいの畦を作る。株間12㌢、反当8千から8千500本を植え付け。ここまでに留意するのは全国的に発生が多い炭そ病を防除すること。ほとんど抑えている。

元肥はミネヒロン㈱のG―セブンという水溶性総合微量要素を反当4袋半と有機化成肥料オルガマグ15袋、農協のコーティング肥料を4袋、そのほかに「鮮緑」を流し込み方法で一回に反当3㌔施用している。

ことに「鮮緑」をメインにしており、これの効果が大きいことを認めている。「鮮緑を使うようになったのは私の仲間で篤農家でもある佐藤輝男さんが使って良い結果を出しているということで、三年ぐらい前から使うようにしました。これを使うようになって、葉肉が厚いし、光沢がすごく良いんです。果実の肥大も良くて、糖度がのります。それといちばん目につくのは根の張りが良いことで、木の伸びが良く樹勢がしっかりして、葉が立っていること。葉水の上がりもいいようです」と「鮮緑」の効果を高く評価している。

これを使用して思うことはひじょうに管理がやりやすいことだそうだ。液肥（6：6：6）を10㌔施用していて、それに「鮮緑」を3㌔入れて、液肥混入器で灌水と一緒に流し込むというやり方をしている。

消毒という消毒はしなくても病気はほとんどつかなかった。「これからはずっと使わないでやって行こうと思っており、期待できるのではないかと思っています。とくにさちのかという品種は炭そ病に強いほうではないんで、苗取り前から出さないように心がけているんです。雨よけハウスを使っているし、鮮緑のような肥料を使ったり、むだな灌水をしないように神経は使っています」

同地では窒素はできるだけ控えるようにし、チップバーンの軽減対策として葉面散布あるいは流し込みでやってもらっている。流し込みは、一回3㌔、葉面散布は500倍に希釈してかけるというのがミネヒロンの指導であるが、江川氏のところでは葉面散布はしないで、流し込み専門でやっている。

「鮮緑」を使用したイチゴ

病気はほとんど皆無

5㌧はらくに穫れそう

ミネヒロン皆川秀孝営業部長はこういう。「普通は心葉を太陽にすかしてみると、脱色しているような葉が多いですけども、鮮緑を二回、三回と使っていただいた人の葉は太陽にすかして見ても苦土欠みたいな症状はなくて、葉っぱの色つやが良く、葉の構造が密になるんですかね、そういう感じなんです」

11月20日から収穫が始まった。例年より一週間は早い。天候が良かったせいである。「11月後半ぐらいかなと思っていたら、11月20日に収穫になりました」と、江川氏。

いまの調子でいくと、五㌧は穫れるんではないかとみている。「いちご部会の平均収量は3㌧から3㌧半ぐらいではないかと思いますが、ミネヒロンの皆川部長さんの指導のおかげで、平均をはるかに越える収量が上がるようになりました」とよろこんでいる。

年内は安定しているが、年明けをどうやって安定させるかが問題。そこで年内はからだ作り、根作り、それと草丈が物を言う。「草丈をしっかり作っておかないと、あとでいくら電照しても伸びない。だから、マルチを敷く前後や電照のあとに根作りの意味で鮮緑の流し込みをしています」とのこと。

江川氏のところは後継者が不在だ。サラリーマンをしている。だから面積を増やせない。いまはらくだが、最盛期の3月、4月、5月あたりはテンテコ舞いだ。「でもこれからは母ちゃんと二人で楽しみながらやっていこうと思っています。これで最高作っていたころは女峰を3反近くやっていたんです。むかしより腕が上がったのか、その当時と収量は同じです。ハウスを一カ所に集中させて、しっかり管理すれば収量が上がるはずだという計算ができるんですね。そんもこれも、佐藤さんにいろいろ指導してもらってやっているお陰げです」

ミネヒロンの主要肥料

鮮緑

水溶性微量要素肥料

（成分）

水溶性マグネシウム	15%
水溶性マンガン	7%
水溶性ホウ素	1%
水溶性鉄	0.5%
水溶性銅	0.04%
水溶性モリブデン	0.04%
水溶性亜鉛	0.08%

（特徴）

1、完全水溶性で微量要素の効果が絶大。

2、根張りを旺盛にし、徒長をおさえ葉の厚みと光沢を増す。

3、イチゴの葉水が上がらない場合や窒素過多による垂れ葉を抑制し葉を立てる。

4、糖度が増し、等級も上がる。

（使い方・荷姿）

粉末を液肥として流し込みするか葉面散布として使用する。5kg×4

エキヒロン

速効性微量要素肥料

（成分）

窒素成分	8%
水溶性リンサン	10%
水溶性加里	8%
水溶性マグネシウム	5%
水溶性マンガン	1.5%
水溶性ホウ素	0.15%
水溶性マンガン	1.5%
水溶性ホウ素	0.15%
水溶性鉄	0.04%
水溶性銅	0.04%
水溶性モリブデン	0.15%
水溶性亜鉛	0.04%

（特徴）

樹勢の弱い場合や窒素肥料の追肥が必要な場合などに使用

（使い方・荷姿）

流し込み５kg溶液／10ａ 葉面散布 500倍

５kg×４

明日の農業の新戦力!!　まったく新しい速効性ミネラル肥料

完全水溶性粉状液肥

鮮緑（せんりょく）（５kg入り）（姉妹品グリーンエキス）

夏ホウレンソウに効果絶大!!

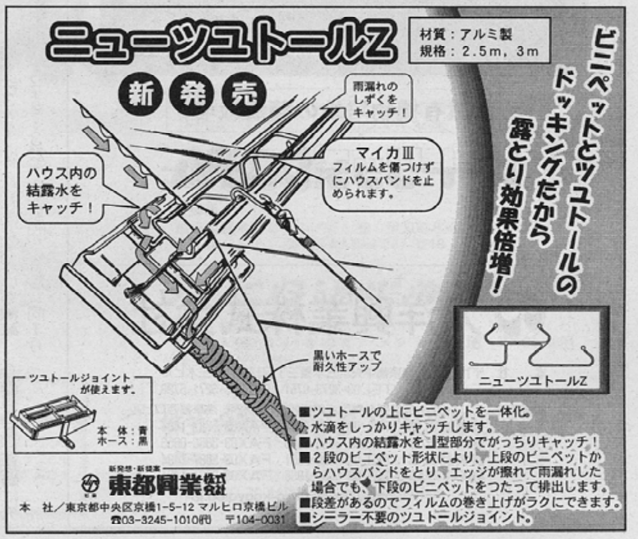
①まったく新しい発想によって造られた「鮮緑」は、完全水溶性でとても使いやすく液肥、葉面散布ともに鮮やかな効果を発揮します。
②根張り（根毛の発生）を旺盛にし、肥料吸収のバランスを整えることで徒長をおさえ、葉の厚みと光沢を増します。
③葉が充実するので下葉の枯れ上がり、葉先の枯れ込みを防ぎ、耐病性を増し品質の向上に役立ちます。
④「鮮緑」の優れたミネラルは根を常に活性化するので、高温期、低温期の樹勢の落ち込みを防ぎます。

本格派水溶性総合微量要素肥料

G―セブン（10kg入り顆粒状）

元肥に施すことによって肥料バランスを整え、早期活着を促し要素欠乏、生理障害を防ぎます。

製造発売元
ミネヒロン株式会社
〒319―0315
茨城県東茨城郡内原町内原1400-6
TEL　029（259）5515（代）
FAX　029（259）5517（代）



ニューツユトールZ
新発売
雨漏れのしずくをキャッチ！
マイカⅢ　フィルムを傷つけずにハウスバンドを止められます。
ハウス内の結露水をキャッチ！
黒いホースで耐久性アップ
ツユトールジョイントが使えます。
本体：青
ホース：黒
ビニペットとツユトールのドッキングだから露とり効果倍増！
ニューツユトールZ

材質：アルミ製
規格：2.5m，3m

■ツユトールの上にビニペットを一体化。水滴をしっかりキャッチします。
■ハウス内の結露水を┘型部分でがっちりキャッチ！
■２段のビニペット形状により、上段のビニペットからハウスバンドをとり、エッジが擦れて雨漏れした場合でも、下段のビニペットをつたって排出します。
■段差があるのでフィルムの巻き上げがラクにできます。
■シーラー不要のツユトールジョイント。

新発想・新提案
東都興業株式会社
本　社／東京都中央区京橋1-5-12 マルヒロ京橋ビル
☎03-3245-1010㈹　〒104-0031